

#### 47. 当院での diabetic foot に対する治療の現況

野呂純敬 川島真人 田村裕昭  
高尾勝浩 吉田公博  
(医療法人玄真堂川島整形外科病院)

四肢疾患で県内に積極的に高気圧酸素治療(HBO)を行っている施設が少なく、四肢の難治性潰瘍のため当院へ紹介もしくは来院する患者は末期のものがほとんどである。今回、特に diabetic foot について検討したので、当院での本疾患に対する治療の現況を報告する。

**【対象と方法】**1983年9月から1994年2月までに当院でHBOを行った難治性潰瘍の患者83例のうち、いわゆる diabetic foot(下肢の糖尿病性壊疽)39例(男27例,女12例)につき検討した。HBOは、2 ATA,約60分加圧で行った。薬物療法として抗凝固剤やプロスタグランジンを投与した。また、切断部位の決定のため経皮酸素分圧測定を5例に行った。

**【結果】**糖尿病に閉塞性動脈硬化症(ASO)を合併しているものが14例あった。切断例は、足趾切断2例,中足部切断1例,サイム切断1例,下腿切断3例(うち1例は開放骨折後),大腿切断1例(死亡)であった。また、ガス壊疽が1例あり、この症例は病巣搔爬・持続洗浄併用によって感染は鎮静化した。ほかに1例が悪性腫瘍のために死亡した。

**【考察】**diabetic foot の治療は、糖尿病のコントロールがまず第一であり、HBOはあくまで補助的治療としてとらえるべきである。しばらく創が良好な状態にあっても一旦悪化すると難治であり、HBO中止後悪化し、結局切断となることが多かった。しかも創の状態と糖尿病のコントロールは表裏一体であり、脳梗塞・虚血性心疾患・糖尿病性網膜症などの合併症はADLを著しく低下させ、さらに創の治癒を困難とする。また、高齢者が多かったためか、ASOを合併している例が多く、治療をさらに困難にしていた。

#### 48. 抗リン脂質抗体症候群による末梢血管閉塞症に対する高圧酸素療法

大山晃弘\*<sup>1)</sup> 伊佐之孝\*<sup>1)</sup> 守田敏洋\*<sup>1)</sup>  
木谷泰治\*<sup>1)</sup> 藤田達士\*<sup>1)</sup> 渡辺久志\*<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup>群馬大学医学部麻酔・蘇生学教室  
(<sup>2)</sup> 同 高圧酸素治療室)

抗リン脂質抗体症候群はSLEなどの自己免疫疾患にしばしば合併し、動静脈血栓症を発症させる。今回われわれは本症候群による両足第一拇趾壊疽に対し、持続硬膜外ブロックとともに高圧酸素療法(HBO)を施行し極めて有効であった症例を経験したので報告する。

**【症例】**58歳,男性。糖尿病,高血圧,陳旧性心筋梗塞,右網膜中心動脈閉塞症を指摘されていた。1993年10月より両足底のチアノーゼおよび両拇趾痛出現し,次第に歩行不能となり,軽度の打撲から両拇趾は壊疽状態になった。血管拡張剤および抗血小板剤投与にもかかわらず壊疽範囲次第に増加し,当科紹介となった。なお,壊疽加療中に抗リン脂質抗体(IgG抗カルヂオライピン抗体)を証明し,抗リン脂質抗体症候群と診断した。

**【HBO療法】**持続硬膜外ブロックおよびプロスタグランジン剤投与下に第1種装置を用い純酸素加圧,2気圧,70分,40クール施行し,両拇趾潰瘍および壊疽は軽快治癒し歩行退院した。

**【考察】**HBO・硬膜外ブロックは末梢動脈閉塞症患者に施行する場合,スチール現象を引き起こすことが知られている。われわれはすでにプロスタグランジン剤投与下ではこの不利なHBOの効果を予防できることを報告している。抗リン脂質抗体症候群に対するHBOの効果は不明であるが,HBO・硬膜外ブロックおよびプロスタグランジン製剤が相乗的に作用し,好効果をもたらしたと考えた。